

関西外国語大学外国語学部「アメリカ学概論」（1年生以上）授業実践報告

小阪，裕城
釧路公立大学経済学部：講師

<https://hdl.handle.net/2324/4822555>

出版情報：オンライン授業の地平：2020年度の実践報告，pp. 49-49，2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International



1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

春学期の授業開始は5月に延期された。この間にオンライン授業を準備するに際して私の念頭にあったのは、既に各所で指摘されていた、学生の側の多様なオンライン環境の問題やコロナ禍で振り回される学生の生活状況のことだった。また、私自身も Zoom 等のツールに馴染みがあったわけではない。ゆえに、1年間を通してサステナブルであること、対面式での授業に近いクオリティを再現することだけを目指すことにした。その時期、SNS ではオンライン授業について様々な機材を駆使した創意工夫が盛んにシェアされていたが、それらの情報は見ないようにした。関西外大はオンライン対応にあたって Zoom と契約し、各教員にアカウントを付与、サーバーを強化し、LMS(Blackboard)もバージョンアップしている。その環境を活かし、様々なアイデアを実験することもできただろう。だが、本学の専門科目は週2回、半期30回から成る。学生のためにも、コロナ禍の中で4つの授業を週2のハイペースで開講し続ける自身のためにも、シンプルでサステナブルであることが重要だと考えた。

本授業は「概論」として、アメリカ史の通史を学ぶことを目的としている。上述の観点から本授業はオンデマンド式とした。LMSにレジュメをアップするとともに、パワーポイントを用いた授業を Zoom で録画し、その他資料や理解に資する教材とともにアップすることで、例年の対面式の講義でやっていることをできる限り再現した。動画は60分程度になるよう努め、台本なしの一本録りを基本とした。同じシラバスのもとで春・秋両学期にそれぞれ開講しているが、米国でのコロナ禍、BLM運動の展開、大統領選等の現在進行中の話題やトピックを積極的に授業に反映させており、同じ動画の使い回しはしていない。

評価の方法は、①平常点(受講した上での質問・考察・感想等を「受講報告メール」で提出してもらう。時折動画で question を投げかけ、考察・回答を記してもらう。)、②従来の筆記試験に代わる期末レポート(剽窃防止も兼ねて、授業で学んだことを与えられたお題に沿ってまとめることをメインに構成するよう指

示。)に加え、③授業外学修(授業で頻繁に紹介した文学・映画作品等を任意で鑑賞し、考察等を簡潔に記して提出。)を導入した。ステイホームが求められるなかで、授業での学びを起点に名作に触れることで今後も親しむ契機になればという意図による。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

大学が実施する授業評価アンケートの結果は、春・秋学期ともに高評価だった。ストレスの多い非常時にあって、満足度の高い授業を、複雑なプロセスをできる限り避けながら展開することは、教員にとっても学生にとっても大きなことだろう。

受講生によれば、他の授業では毎回 LMS 上に設けられたクイズへの解答結果から成績を算出する方式が多かったが、それでは授業動画のうち解答に関わる部分のみを飛び飛びで見ただけになってしまう、general な問いについて、または授業内容から自由に考察を展開させる本授業の方式のほうが学びに資する感じがした、ということだった。

他方、大人数の学生のコミットメントを管理するために LMS をもっと有効活用するなど、テクニカルな点で改善の余地がある。また、双方向性の点で、本授業はメールとレポートのフィードバックに限られた。学生間の交流と協働もなかった。ただ、双方向の学びを効果的に実現するのは、現行カリキュラムや授業編成のあり方、受講者数などを鑑みて、本授業では難しいようにも思われた。